

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 3月 17日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4677900070号
法人名	有限会社 共生
事業所名	グループホーム 共生
所在地	鹿児島県肝属郡南大隅町佐多郡896番地2 (電話) 0994-28-4884
自己評価作成日	平成25年2月23日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年3月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

野菜系の下ごしらえ等を手伝ってもらうなど、日常生活に近い環境を提供し皆で協力して生活していくことにより、身体的機能の向上等を図っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大隈半島最南端の南大隅町佐多にあり、すぐ下の地区は海岸地区、上の地域は山間地区と自然に囲まれた環境のグループホームである。  
ユニット毎にアニマルセラピーとしての効果が期待できる愛嬌のよい可愛い子犬が利用者と共に生活している。  
運営者は地域の住民なので、地域との交流も密に実践されている。  
また利用者は近隣の地区の住人だった方も多く、住み慣れた地域で管理者や職員から家族的なサービスを受けている。  
管理者や職員は、利用者に対して一人ひとりの思いを大切に家族のように、寄り添える気持ちや、その人らしく過ごせる様に支援しているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	定期的に、申し送りに於いて全職員の復唱を実践している。	理念は各ユニット毎に掲示されている。独自の理念を職員で意見を出し合い作り出したものである。毎朝礼時には唱和し、支援へと実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の行事や地域のゲートボール大会等への参加や見学を通して、地域の方々との交流を深めている。	小学校の行事へ参加していたが閉校となってしまい、地域と（の交流）は、野菜や食材の差し入れや、新鮮な魚の持ち込みなどを通じ、盛んに交流できている。清掃作業として道路周りを担当している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運動会や卒業式などの地域交流会等を通し、ホームの利用者との触れ合いを図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	朝担当者への現状説明、緊急時の対応について校区館長、警察署長への説明等を行っている。	2ヵ月に一度の開催へは地域から公民館長・民生委員・警察・介護福祉課・家族会など参加してもらい、現況・行事報告を行い、関係機関からの意見要望などを聞き、サービス向上につなげている。	

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者との連携を密に図っている。	運営推進会議へも参加をもらっている。町の介護福祉課とは直接連絡も取り合っているほか、大隈地域振興局とも協力関係は密である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを原則としているが、生命に危険を及ぼす恐れがある場合、家族の同意の下で実施する場合もある。	日中の施錠はしていない。生命に危険を及ぼす恐れに関してのみ家族の同意をもらい、(現状)ズリ落ち防止対策を取っている方もいる。職員も内部研修を行い情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護ケアの勉強会等を通して、虐待防止について理解を求めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば積極的に参加をし、必要があれば利用者に説明、納得してもらった上で支援を行っている。		

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者が、重要事項説明書等を詳しく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や支払い等、家族の来訪時に管理者や各棟の主任が対応して現状の説明や要望等を聞き、運営に反映させている。遠方の家族とは、請求書や領収書送付時の文書のやりとりで、現状説明や意見交換を図っている。	面会や支払い時に、意見要望を聞き取っている。遠方の家族には月1回は電話・文書で報告し、情報交換を図り、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会、職員会議等を通して意見反映を図っている。	職員会議は月1回とし、勉強会は不定期ではあるが開催している。意見要望も会議時やその都度聞いている。気軽に相談できる関係を維持し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自に向上心を持たせるように、資格の取得や研修の機会を設けている。		

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	各研修等への参加を実践している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	協議会等を通して、交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に家族、利用者との話し合いにより信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族、利用者との話し合いにより信頼関係の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、情報収集の段階で希望を聞き、利用できるサービスや希望されるサービスの利用が可能であるか検討し、対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者との会話等に於いても、親しみやすい田舎の言葉を使いながらなど、和んだ場を作れるように努めている。		

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のみの意向ではなく、サービス支援にあたり家族も賛同できるかを確認し、問題を共有しながら支援できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族及び民生委員の方々にも協力を求めたり、居住していた地域の情報を利用者に伝えたりしている。	同地域出身の利用者が多く、近隣に散歩に行ったり、以前の職場を訪ねたり、集落の墓参りで近所の方と話しをすること等を通じ関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	アクティビティサービスを企て利用する事により、他ユニットとの交流を深めたり同ユニット同士のトラブル等も未然に防げるように気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移床及び入院等により契約が終了しても、家族との連携をとり介保についてや介護サービスについて等の相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやサービス担当者会議等で個々の情報収集に努め、本人の希望する快適な生活が支援できるように皆で話し合っている。	本人の希望することに傾聴し、思いを伝えきれない利用者は表情や様子を見て感じ取り、その人らしい生活出来る様に支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族、担当ケアマネ等により情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活援助の中で、身体的、精神的な力量及び理解力の把握に努め、皆で情報を共有して現状を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族、主治医、ケアスタッフ等で話し合い、希望されるサービスと出来るサービスを提供できるように努めている。	3ヵ月毎にモニタリングを実施し 6ヵ月毎に見直しをしている。ケアプランも遠方の家族とは 電話・文書で連絡を取りながら介護計画を作成しサービスの向上に努めている。	



鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、身体記録を記し残すことにより、本人の現状を皆で共有し、問題の解決や快適な生活を援助できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに対応したケアの実践が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の趣味等を把握して、花園や農園など、共同作業を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関外の本人の希望の医療機関への受診等を、遠方であっても出来る限り実施している。	かかりつけ医への定期受診も同行し、診療結果は家族へ報告している。近くの協力医療機関や、遠方の病院であっても出来る限り同行受診出来る様支援している。	

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入浴時などの疾患等の確認や、食事時の援助等の記録を定期的に報告している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療機関の相談員、関係者との連絡を密に図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族との話し合いを十分に行い、事業所で出来る範囲のことを実践している。</p>	<p>事業所は重度化や終末期について、入居時に、充分本人や家族と話し合い、ホームで出来る範囲の支援に取り組んで実施している。</p>	<p>家族に説明した重度化や終末期に向けた方針を、明文化し同意書を交わす取り組みに期待したい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防の救命訓練等を年に2回実施している。</p>		

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施を行っている。	昼夜間想定で年2回避難訓練を実施している。自主訓練も実施している。職員も近所に住んでいるので緊急時はすぐに駆けつける体制が出来ている。備蓄は台風も多い地区なので発電機も備え、食料水も十分に確保されている。	

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の生活歴等を考慮して会話している。	入居時に一人ひとりの生活歴を聞き、それを元に言葉のかけ方や、その利用者にあった話題作りに工夫している。トイレ誘導も耳打ちでさりげなく声かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を出来る限り支援できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で、出来る範囲で希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望に沿って実施している。		

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等の協力をお願いしている。	「美味しいものを食べたい」との声が多く一番の楽しみであるので、料理の下ごしらえを出来る利用者にはお願いすることもある。ドライブなど外出時に寿司を食べたり、気候のいい時期は近くに弁当持参で出かけることもある。また偶数月の誕生会はソーメン流しなど趣向を凝らし喜んでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量の記録に基づき、実施している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的に声掛けを行い、トイレへの誘導や介助等を行っている。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を出来るだけ支援している。日中は布パンツになった方やポータブルトイレを夜間だけ使用している方もいる。定期的な声掛けで自立へ向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立への配慮や、医療機関との協力により予防に取り組んでいる。		

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	皮膚病との関係があるため、出来る限り定期的な入浴を声掛けしている。	体調管理をしながら、週3回入浴している。入浴をためらう利用者は、時間を変えたり、清拭に変えたりしている。異性介助も拒否は無く利用者それぞれの希望に応じた入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有のホールと自室での生活空間を、本人の希望にて使用できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬に関して、全職員が理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望により、アルコールやタバコ等の嗜好品を提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅への帰省や墓参り等を支援している。	日常的な散歩や買い物を支援している。また本人の希望があれば自宅や墓参りへも連れて行っている。定期受診時に外食へも出かけたり、本人の希望を把握しながら外出の支援をしている。	

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の理解の下、買い物等で使える額の所持金は各自保管されている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望により、実施している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じる事が出来るように、四季の花々を飾っている。</p>	<p>リビング空間は庭に面し、ウッドデッキがあり、夏にはソーメン流しなども行っている。四季を感じる事が出来るように花を飾ったり、作品を飾ったりしている。フロアにはソファが置いてありいつでも座れるようになっている。厨房は対面式になっており 利用者とは会話して楽しみながら調理をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>別棟へ出かけたりして、利用者同士の交流を図れるようにしている。</p>		

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出のある品物等の持ち込みを、入所時にお願いしている。	利用者は、個々に馴染みの家具を入居時に持ち込んだり、写真や思い出の品物を飾って、居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺り等を使用してもらい、出来る限り本人の自立した生活が出来るように支援している。		



V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム共生 1ユニット

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない